

第22回 文京区医療連携推進協議会在宅医療検討部会 兼
第12回 文京区地域包括ケア推進委員会医療介護連携専門部会
(議事要点記録)

日時 令和元年11月27日(水) 午後1時30分から午後2時59分
場所 障害者会館会議室A・B(シビックセンター3階)

<会議次第>

- 1 部会長挨拶
- 2 文京区地域医療連携推進協議会 在宅医療検討部会 報告事項・議事
(1) 2020年版文京かかりつけマップについて
- 3 文京区地域包括ケア推進委員会 医療介護連携専門部会 報告事項・議事
(1) 文の京フレイル予防プロジェクトの取組状況について
- 4 その他
- 5 閉会

<配布資料>

- 資料第1号 文京かかりつけマップの改定について
資料第2号 文の京フレイル予防プロジェクトの取組状況について
資料第3号 令和2年度に向けての検討テーマについて(依頼)
参考資料1 2019年版文京かかりつけマップ
参考資料2 文京区地域医療連携推進協議会在宅医療検討部会 兼
文京区地域医療包括ケア推進委員会医療介護連携専門部会会員名簿

<出席者>

田城孝雄部会長、久保雄一委員、星野高之委員、藤田良治委員
川又靖則委員、安部節美委員、角田由美子委員、宮本千恵美委員
高梨陽子委員、片野恵委員、溝尾朗委員、中根綾子委員
根本万里子委員、大沼由季代理委員、中谷信夫委員、新堀季之委員
名取芳子委員、飯塚しのぶ委員、森岡加奈絵委員、中川貞子委員、井関美加委員

<欠席者>

英裕雄委員、石川みずえ委員、吉田勝俊委員

<事務局>

横戸健康推進課長、真下高齢福祉課長、坂田認知症・地域包括ケア担当課長

<傍聴者>

0人

1 部会長挨拶

田城部会長；第22回文京区地域医療連携推進協議会在宅医療検討部会及び第12回文京区地域包括ケア推進委員会医療介護連携専門部会を始めます。
部会の出席状況と配布資料について、事務局よりお願いします。

榎戸健康推進課長（事務局）；<出席状況報告、配布資料の確認>

田城部会長；部会員に変更がありましたので、ご連絡いたします。
9月1日付で小石川歯科医師会担当理事の野村茂樹委員にかわり、新たに、小石川歯科医師会担当理事の星野高之様が部会員に就任されました。
では、星野委員、一言ご挨拶をお願いいたします。

<星野委員ご挨拶>

2 文京区地域医療連携推進協議会在宅医療検討部会 報告事項・議事 (1) 2020年版 文京かかりつけマップについて

田城部会長；当部会は、地域医療連携推進協議会在宅医療検討部会と地域包括ケア推進委員会医療介護連携専門部会の2つの合議体になります。前半で在宅医療検討部会の議事・報告があり、次に医療介護連携専門部会としての議事・報告になります。委員の皆様、ぜひ活発なご議論をお願いします。
それでは、次第2、文京区地域医療連携推進協議会在宅医療検討部会の議事に入ります。

議事(1)「文京かかりつけマップについて」、事務局より報告をお願いします。

目崎医療連携担当主査（事務局）；<資料第1号と参考資料1の説明>

田城部会長；ただいまの報告について、ご質問、ご意見はありますか。
アイコンの「カード（自費診療のみ）」について、診療の現場にいらっしゃる先生方のご意見を反映させたとのことですが、自費払いに限ったのは何か理由があるのですか。医療機関でも薬局では、スマホ決済サービスなども利用できる場所もありますよね。

目崎医療連携担当主査（事務局）；もし保険診療でもカード払いを行っているのであれば、備考欄に保険診療でも支払い可ということで、一文を入れさせていただきます。

星野委員；質問なのですが、カード払いにこの自費診療のみという記載が入るとのことですよね。

目崎医療連携担当主査（事務局）；はい、そうです。

星野委員；カード会社によりますが、ホームページにカード支払い可で自費診療のみという項目が入っていると、その会社のクレジットカードを使用することができないというケースもあります。

以前当院で取り扱い可能なカードとして表示したところ、某カード会社からその記載があるとカード利用ができないため、ホームページから自費診療のみという項目を削除するようお話がありました。このようなケースはすぐ起こることではないと思いますが、そういうことがあったとお伝えしておきます。何かもしありましたら、よろしくお願ひします。

田城部会長；自費診療だけではなく、要するに保険を使った場合でもカード支払いが可能であればいいとのことですね。

星野委員；要するに、その医院側の都合でカードが使えるものと使えないものを選択してはいけないということだそうです。

田城部会長；カード会社としては、その条件に差があることもあるということですね。そういった対応があった場合には、そのカード会社には誤解がないようにご説明するかですかね。

星野委員；お願ひします。

田城部会長；溝尾委員、新宿区ではかかりつけマップのような冊子を作成されたり、医師会やホームページ等でもいろいろと取り組まれています、何か情報提供していただければと思います。

溝尾委員；新宿区では、最初クリニックを掲載したものだけでしたので、文京区のかかりつけマップを参考に、さまざまな医療資源を掲載するものを

つくります。やはり、新宿区のものも一緒にあったほうが非常に便利だと思います。

田城部会長；文京区と新宿区は隣り合っていますし、区境では行ったり来たりもあると思いますので、情報共有しあって、いいところでそろえていかれるとよろしいかと思います。

3 文京区地域包括ケア推進委員会文京区地域包括ケア推進委員会
医療介護連携専門部会 報告事項・議事

(1) 文の京フレイル予防プロジェクトの取組状況について

田城部会長；次に、次第3の文京区地域包括ケア推進委員会文京区地域包括ケア推進委員会医療介護連携専門部会の議事(1)「文の京フレイル予防プロジェクトの取組状況について」、事務局より報告をお願いします。

真下高齢福祉課長(事務局)；<資料第2号の説明>

田城部会長；なかなかおもしろい取り組みだと思います。
ご質問やご意見ございましたらどうぞ。

川又委員；こちらのフレイルチェックですが、サポートの方とほとんどマンツーマンで行われているのですか。

真下高齢福祉課長(事務局)；参加者とほぼ同数とまではいきませんが、フレイルサポーターの方も15名前後参加いただいておりますので、フレイルチェックの質問のところで結構お時間がかかる場合もありますので、その辺をフォローする意味も含めて同数ぐらいの人数を集めるようにしています。

計測は5項目あるのですが、ここもかなりの数で、これぐらいの人数のサポーターが必要になりますので、ご協力いただいています。

川又委員；そうすると、20人仮にフレイルチェックを受けたとすると、スタートから終わるまで4、5時間かけてやるのでしょうか。

真下高齢福祉課長；始まりから終わりまでは大体2時間ぐらいになります。

川又委員；薬剤師会では10月に「薬と健康の週間」を実施してまして、今年の本郷台中学にて文京区歯科医師会と合同で開催し、250名ぐらいの方に

ご来場いただきました。フレイルチェックをして欲しいとの要望があったのですが、10時から4時までのあいている間に2時間設けて、20名の予約をとるといふとさすがにそれは難しいのではという意見もございます。地域に出ていくということで、来年は300人ぐらいの来場を予定しています。中学校のグラウンドのほうでは、地域商店のバザールを行っていて、そこには1,000人来場者がいます。周知啓発のため毎年私も参加していて、フレイルチェックをしてほしいという声を多くいただきました。

真下高齢福祉課長；ぜひそのような機会を通じてフレイルを広めていきたいと思ひます。高齢者クラブ芸能大会を4地区で開催しており、参加者は各地区とも大体250人ぐらいなのですが、2時間フルではなく20分前後ほどで、フレイルについて説明を入れながら、質問に答えて赤青シールを貼っていく「イレブンチェック」と、指輪っかでふくらはぎの太さをはかる「指輪っかテスト」を行っています。自分がフレイルになっているのか気づいたり、意識を変えるという意味合いでも、イレブンチェックを行う効果はあると思ひています。もしそういうお話があれば、このイレブンチェックを行う機会といふのもできるかなと思ひています。

川又委員；当日は薬剤師のスタッフが30名ぐらい来るのですが、フレイルトレーナーの方ではなく我々薬剤師スタッフがフレイルチェックをして、相談をするといふ形もとれそうですか。薬剤師がフレイルトレーナーになるのも一つの方法かもしれません。

真下高齢福祉課長；そうですね。

川又委員；検討したいと思ひますので、その節はよろしくお願ひいたします。

田城部会長；フレイルチェックは、東京大学高齢社会総合研究機構で飯島先生たちが取り組まれている研究事業で、経年的に数値を計測された科学的なエビデンスがあります。東大が正式に研究として行っているものとしますと、やはり筋肉量や握力、滑舌の測定等が必須になってきますので、簡便的にイレブンチェックとふくらはぎの指わっかテストを行い、フレイルについてきちんと計測を受けてくださいといふ普及啓発で区とタイアップするのは、いいことだと思ひます。

グリーンのTシャツは、トレーナーとサポーターの両方の方々が着用しているのですか。行政の方も着用しますか。

真下高齢福祉課長；行政の職員も着用することがありますが、基本的にはサポーターとトレーナーの方が着用して対応をされています。

田城部会長；柏市のフレイル事業では、厚生労働省の視察で局長も着用されていましたね。フレイル事業は西東京市でも行われていて、日本中で医師会も協力していますので、基礎自治体に数年のうちに普及していくと思います。フレイルチェック事業は、フレイルトレーナーの方自身が一番恩恵にあずかっているとも考えられ、社会的フレイルだった人が役割を与えられていると思います。

対象者ですが、65歳以上であればどなたでも参加できるのですか。

真下高齢福祉課長；65歳以上のように、明確に年齢を区切ってはおりませんので、それよりも若い方でお越しただければ、チェックいただけます。

田城部会長；希望すればチェックが受けられるのですね。

真下高齢福祉課長；そうですね。フレイルチェック希望の方が余りにも多くなりましたら、年齢層については考慮するかもしれませんが、基本的に高齢の方というような表現で募集しております。

田城部会長；フレイルチェック1回20名限定で、文京区民が20万いる中の高齢者を一巡するとしますと、相当な回数が必要になりますね。柏市では結構な回数を実施されていますが。

真下高齢福祉課長；文京区でも講習会を繰り返す中でフレイルサポーターを増やしていき、それに応じて各地域で数多くフレイルチェックを実施していこうという計画ではあります。まだ事業を始めたところですので、これから徐々にその裾野を広げていきたいと思っております。

田城部会長；リタイアした老年男性は、男性同士の横のつながりがなく宙に浮いていることが多いのですが、フレイル事業では生き生きとして活躍する場を得られるという効果もありますので、皆様の周りにそのような人材がいらっしやいましたら、ぜひサポーターになっていただくとよろしいと思います。

西東京市の市長は医師なのですが、市を挙げてフレイル事業に取り組まれています。

フレイルチェック参加者の男女比が1対7とのことですが、柏市ではこ

これまで男女比の差がなかった気がします。女性が多いのは間違いありませんが、男性は社会的なフレイルで社会参加がない方も多いので、ぜひ男性に参加していただけるといいと思います。

フレイルチェックのお口の元気度テストですが、こちらは栄養口腔フレイルですので、歯科医師会の先生方が活躍される場になると思います。

真下高齢福祉課長；参加者の男女比のお話がありましたが、まだ事業が始まったばかりで、こういった事業に興味をもたれるのは女性の方が多いところもあり、このような傾向が出ていると思います。ただ、これから男性の参加を増やし、男性にぜひ出てきていただきたいと思っております。サポーターは男女比が半々になっていまして、地域で活動されている男性の方がサポーターとして多く来てくださってます。その男性方から地域の男性へ声かけしてフレイルチェックをご紹介いただいて、その関係でまたご参加いただくなど、そういった広がりをつくっていきたいと考えています。

田城部会長；フレイルサポーターの中に民生委員の方はいらっしゃいますか。

真下高齢福祉課長；民生委員の方にもお声がけしたところで、まだサポーターになっていただいている方はいらっしゃいませんが、ぜひ民生委員の方にもなっただければと思っております。引き続きお声がけさせていただこうと思います。

田城部会長；フレイルチェック自体が社会参加を促すイベントであり、リタイア後の老年男性が社会参加するきっかけになると思います。

何かご意見等ございますか。

溝尾委員；来年度から「フレイル健診」が実施されるとのことですが、今どのような状況なのでしょうか。

田城部会長；私も伺っておきたいと思っておりました。フレイルチェックの対象者が基本希望すればどなたでも受けられるとのことですので、財源は介護予防・日常生活支援総合事業ではないのですよね。

真下高齢福祉課長；今は、介護予防・日常生活支援総合事業には位置づけてなく、一般財源の方になります。

田城部会長；介護予防・日常生活支援総合事業は、元気高齢者もご利用いた

だけますか。要支援ではない方も大丈夫ですか。

真下高齢福祉課長；要支援ではない方も介護予防事業にご参加いただけます。

田城部会長；フレイルチェックの参加料は無料ですか。

真下高齢福祉課長；参加料は無料です。

田城部会長；元気高齢者の中には、総合事業に自分も参加したいという意見があつて、山口県防府市などいろいろ取り組みをされているところもあります。分け隔てなく、みんなが参加したくなるものになってくると思います。

溝尾先生のご質問ですが、さきほど川又委員がおっしゃったように、ローラー的に健診を行うということではないかと思ひます。財源に関してははっきりわかりませんが、ほかの市にも話を伺いたひと思ひます。

榎戸健康推進課長（事務局）；溝尾委員のご質問ですが、我々も新聞報道以上の情報は特になひところですが、後期高齢者の方を対象にフレイル健診を行うことを確認してひます。高齢者医療担当とどのような形で実施してひくか詰めてひて、国からの通知文を待っているところですが、来年度からスムーズな実施を行うのであれば、現在実施している後期高齢者健診に質問票がござひますので、その質問票をフレイルの形に変更する等が無難な着地であると思ひているところですが。

これらの取り組みにつきましては、国からの通知文を待っているところですので、情報がわかり次第、皆様にお伝えしたいと思ひます。同時に区で行っているフレイル予防プロジェクトとのすみ分けも、並行して考えてひくべきと思ひておひます。

田城部会長；ありがとうございます。

溝尾委員、新宿区ではフレイルチェックを実施されていますか。

溝尾委員；新宿区ではまだフレイルチェックはやってひません。

田城部会長；ほかにご意見はござひますか。

森岡委員；フレイルサポーターですが、開催時の写真を拝見しますと年配の方が多ひようで、さきほど65歳ぐらひで定年退職して家にひる方々でとの

お話でしたが、私は若い方がもうちょっといらっしゃってもいいのではないかと思います。学生というとなかなか難しいかもしれませんが、例えば、引きこもっている若い方などが一歩外に出るといったボランティアのような形で、若い方を増やされてもいいのではと思いました。フレイルサポーターの募集は、どのようにアナウンスされましたか。

真下高齢福祉課長（事務局）；フレイルサポーターの募集ですが、今回募集の第1期生は今後フレイルを活用していく中で礎となりますので、半数の方は当方よりお声がけさせていただきました。また、残り半数は公募で、興味をお持ちの方を募集し決定しました。今後の募集をどのような形で行うかは、検討しているところです。

サポーターの意味合いとして、地域への参画や社会参加も多分に含めていまして、高齢者が外に出ず、引きこもりがちであるのは、健康を維持する上で阻害される環境であると考えています。多くの方に地域に出てきていただきたいという面で、サポーター活動を進めているところです。若い方のご参加は新しい風が入るかと思いますが、まずは高齢者の方を中心に、サポーターを募集したいと考えております。

今後、地域において文京区社会福祉協議会と一緒にプラスアルファでの取り組みを行うことを考えていまして、そういったところにぜひ高齢者だけではなく、年齢層を限定せず学生の方にも入っていただき、サポーターと一緒に活躍していただければと考えています。

田城部会長；地域共生社会ということを見ると、子どもからお年寄りまで全ての年齢層において、ひきこもり対策は重要になってきます。フレイル予防プロジェクトが柏市で始まった当時は、まだ厚生労働省が地域共生社会の実現を掲げる前でした。サポーターの高齢者の方自身も対象者であり、サポーターになれる人は要介護になる確率が少なくなることもあり、サポーターのチアアップという意味合いもあって、全国に広がっているのが指摘のとおりだと思います。

文京区には学校が多いですし、例えば福祉系の学生が参加するなど、地域によっていろいろな形があると思います。高校生や大学生、ひきこもっている方などいろいろな方々が参加するようなプロジェクトがあると思いますので、文京区モデルなど地域に応じて開発されていくと思います。

4 その他

田城部会長；つぎに、次第4の「その他」になります。

来年度以降の検討テーマについて、部会員の皆様に来年度の本部会の検討テーマについて、意見照会の説明を事務局からお願いします。

榎戸健康推進課長（事務局）；＜資料第3号の説明＞

田城部会長；ご意見やご質問はございますか。

地域共生社会、「全世代型」社会保障、小児では医療的ケア児など、いろいろな問題が出てきていると思います。

なにかご意見等ございませんか。

星野委員；先ほど話にあがりましたフレイルチェックですが、私も7月20日に開催されたフレイルチェックに参加し、飯島先生のお話を伺いました。フレイルチェックを受けた方のその後のフォローはどのようにされているのでしょうか。

真下高齢福祉課長（事務局）；現時点では、フレイルチェックで赤シールの多いリスクのある方については、区の事業のご紹介や、区で作成した冊子をお渡ししてご活用いただくといったことを行っています。

今後の課題として、リスクのある方をどのようにつないでいくか。専門職の方にもお入りいただいていますので、問題があるというご指摘があれば、そういった方をどのようにつなぐか検討しているところで、まだ実際にはフォローできてない状況です。まずはフレイルチェックをきちんと行うというところに力点を置いて始めており、2回目のチェックは始まったところですので、その辺の検討も進めていきたいと思っています。

星野委員；飯島先生から、フレイルチェックを受けた方がフレイルサポーターまたはフレイルトレーナーに接して、自分たちもやりたいと思うようにしていきたいという話を伺いました。フレイルチェックを受けた方々がフレイルサポーターになり、さらにフレイルトレーナーになっていく形が理想であると。今後、同じメンバーで2回目のチェックを行うとのことですが、1回目に参加した方の内、2回目にどれぐらいの人数の方が参加したのか。1回目から2回目の間に、参加した方々がどのような行動をとられたのか。赤シールが多い方は何をしたか、また周りの人に何か説明したか。そして、その中からフレイルサポーターになりたいと思った方が1人でも2人でもいたのか。このように経過を追いかけていくことも、今後行っていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

先ほどお話がありましたが、年配の男性の方があまり社会に出てこない

というのはよくあることで、女性が多く集まった中にたまに旦那さんがついてくるといふ形が多いようです。男性を外に出すならば、男性だけの集団を呼び出したほうが来やすいということを言われました。男性同士の方が参加しやすいこともありますので、文京区ならではの何か誘い出し方を検討されてみたらいかがかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

田城部会長；男性だけ呼び出すとしますと、マージャン大会と併設するといった切り口もあるかと思っております。

今年はキックオフの年で、本格的に始まるのは来年度以降であると思っております。柏市や西東京市では経年追跡されていて、フレイルチェックを続けている方のほうが、明らかに要介護の進みが遅いという研究結果がございます。

フレイル予防プロジェクトは文京区で始まったばかりですが、柏市や西東京市、平塚市などの先行事例がございますので、キャッチアップしていけると思っております。

溝尾委員；ここで話し合うテーマなのか少しわかりませんが、東京都区西部緩和ケア連携推進事業では、がんを抱える患者さんやご家族、支援者向けにがんの医療資源マップを作成しています。急性期のがんの治療に関する情報はたくさんありますが、急性期病院の退院後に在宅緩和ケアやがん相談を受けられる医療機関について情報を得られる「がん資源マップ」といったものを何か検討できたらいいと思っております。

田城部会長；文京区には都道府県がん診療連携拠点病院である都立駒込病院と、地域がん診療連携拠点病院である4大学病院があり、各病院にはがん診療に関する相談窓口がしっかり設置されていると思っております。

また、在宅医療に携わっている方々など、地域にはそういうスキルをお持ちの方々がおられると思っております。緩和ケアがどうなっているのか、情報提供いただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

文京区かかりつけ医・在宅療養相談窓口が、小石川医師会内に設置されていますが、そちらにがん関係のご相談はございますか。

榎戸健康推進課長(事務局)；がんに特化した相談の件数はわかりませんが、在宅療養を希望される患者さんが、在宅療養に対応していただける訪問看護やケアマネジャーの紹介をしてもらうなどの相談には利用されていると思っております。

溝尾委員；がん患者の方が、がんと診断された後どういった経緯をたどるのかとても不安になられると思いますので、療養できる場所についてマップ等の情報があれば、安心感につながると思います。

田城部会長；新宿区には東京女子医科大学病院、JCHO東京新宿メディカルセンター、慶應義塾大学病院、東京医科大学病院、社会保険中央総合病院などがあり、医療資源が豊富です。私も以前3年間ほど新宿区の在宅医療検討会の委員長をしておりましたが、区内病院から医師や看護師が参加されていました。当時の東京厚生年金病院を中心に緩和ケアがすすめられていて、厚生年金病院の緩和ケア病棟は東京都の指定を受けていて、熱心にごんに取り組まれていたのを思い出しました。

文京区内の5大病院の部会員のみなさまに、がんの相談窓口や対策などお伺いしたいと思います。

安部委員；がんの相談窓口に関してでしょうか。

溝尾委員；相談窓口だけではなく、がんに関するいろいろな資源を一つにまとめた形でマップをつくっています。訪問看護ステーション、在宅医療をやってくれる先生でもがんのターミナルで緩和は見ないという先生もいらっしゃいますので、がんの特化した詳しいマップが作ればと思います。

安部委員；当院もそうですが、他の大学病院でも同じかと思いますが、患者さんの居住エリアが広すぎて、マップが文京区だけではおそらく追いつかない状況にあると思います。がんに関する相談窓口はどの病院にもあり、文京区は地域包括支援センターなどの地域の窓口が充実していますので、地域包括支援センターと病院と、双方で行っていると思います。全国に患者さんがいる状況ですので、患者さんごとにその都度窓口を探しながらということになります。

がんに限らず、「文京かかりつけマップ」は医療に特化していますので、医療の情報は充実していますので、できれば逆に文京の福祉系、介護系の事業所などの資源のほうを知りたいと思います。

角田委員；当院も全く同じです。文京区の方だけではなく他区からもいらっしゃいますし、救急の患者さんが多く来院することもあるがただではない話になりますので、今安部委員がおっしゃったような地域へつなぐ資源について何か資料があったほうが、私どもは助かるというのが現状です。

宮本委員；当院も皆さんと同じです。がんに関して申し上げますれば、当院も地域がん診療連携拠点病院ですので、がんで治療をされた方は、がんの相談窓口、相談支援センターで相談をし、在宅につながる場合は退院支援の部署を通して患者さんを地域にお願いするという形になります。当院の医師と地域のかかりつけ医が互いに連携しながら治療にあたる、2人かかりつけ主治医制を進めております。

また、がん患者に関しては、国立がん研究センターのがん対策情報センターに登録されている一覧で緩和ケアを探してしまして、そのの探せるマップは非常に役立っています。

院内に関しては連携先の登録がされていて、そこから拾っていく検索システムがございまして、在宅に関しても検索システムを見てある程度蓄積されたものを使う形になります。ただ、文京区内の在宅診療をされている先生が入れ替わることも結構ありますので、そこをどのように把握していくのか見えにくいところはあると思います。

高梨委員；当院も同じような感じで、がんに特化ということは余りありませんので、蓄積されたデータの中から、この先生はがんに強いとか、訪問看護師の方がいつもターミナルをよく見てくださっているとか、ふだんのつながりの中で連携先のデータを拾って連携していく形をとっています。やはり緩和ケア病棟といった情報になると、宮本委員がおっしゃっていたように、がん対策情報サービスセンターのマップで探しています。

私は最近現場から少し離れていて、現場のスタッフから話をきいたのですが、フリーで利用できる「ケアブック調整くん」という検索サービスがあって、住所を入れると、回復期病棟や緩和ケア病棟などの医療機関の種別で分かれてマップ上で検索できるそうで、スタッフで結構利用しているようです。当院も結構いろいろな地域の方が来院されますので、そういったところは一般に探すような形をとっています。

片野委員；当院は、やはりがん患者の方がとても多いのですが、ほかの病院同様、がん相談支援センターがありますので、そちらでご相談を承っています。退院調整部門は、看護師が長く勤めていて経験も情報の蓄積もあり、MSWもすぐそばにいますので、例えば緩和ケアの病院などはMSWにも相談をして、患者さんの状況に合わせたところを探してもらうという形をしています。国立がん研究センターのがん情報サービスも利用していますので、今困っているところはないように思います。

田城部会長；久保委員、がん診療に関していかがでしょうか。

久保委員；確かに、在宅でがん患者を診るときは、どの訪問看護ステーションの方と組んでも大丈夫というわけではありませんので、その訪問看護ステーションの実力といたしますか、在宅療養に強いかどうかなどをやはり考慮いたします。症状の重い患者さんの場合は、そのような患者対応を頼めるような訪問看護ステーションを経験から選んでいます。ただ、地域が離れた患者さんも紹介で来院していて、その方の地域の看護ステーションの情報がない場合もありますので、マップがあれば活用できると思います。

田城部会長；昔、私が東大病院の医療社会福祉部にいたときも、退院支援室の方は、どこの訪問看護師さんはどこまでできるかとか、こういう患者さんであればあそこが大丈夫だというリストを皆さん内々でお持ちになっていて、それは医師の組み合わせにもなっていると思います。

渡邊清高先生が中心になって国立がん研究センターで「がんになったら手にとるガイド」を作成され、私も委員だったのですが、がんと診断された人全員に渡そうというプロジェクトが昔ありました。「がんになったら手にとるガイド」刊行後、全国の自治体で地域のがんの情報を冊子にまとめる動きとなり、沖縄県や栃木県などではいろいろなガイドやマップが作成されました。東京都はそうした冊子を作成前に地域連携パス事業を行っていて、今は診療報酬では地域連携パスの評価はされていませんが、入退院支援加算は実は連携パスの延長線上にあって、連携する20箇所以上の医療機関等の職員と定期的な面会を年3回以上行うという連携パスの規定がそのまま生きています。逆に疾患の縛りがなくなった分、脳卒中、大腿骨頸部骨折とがん以外でも連携ができるということになり、加算がとれるという意味では進んでいると思います。

新宿区は、確かに厚生年金病院があって、訪問看護師の秋山正子さんがいらしてということもあって、割とがん治療に特化していたかとはいますが、文京区の場合は医療資源が極めて潤沢なので、むしろ在宅とか療養病床がとても大変なことになっているという状況だと思います。

医療に傾いた話になりましたが、地域共生社会においてこれから生活支援や生活支援コーディネーターが主役になってくるとおられます。文京区では生活支援コーディネーターが活躍されているのか、お話を伺えればと思います。

真下高齢福祉課長；今、コーディネーターは社会福祉協議会のほうで活動していただいています。2層構造ではあるものの、明確に2層で分けているわけではなく、2層、1層を兼ねている形で、各地区2名で8名配置して

お願いしています。機能的には1層の機能も持つし、2層の機能も持つということで、各地での機能は網羅しているところがございます。主に地域での活動になり、地域に出て、地域の中で生活支援、あるいは地域福祉に従事する方を一緒に探し、また支援しながら地域の方を支えていくという活動をしていただいています。

田城部会長；文京区のコーディネーターは委託をしているのですか。

真下高齢福祉課長；社会福祉協議会の職員となっております。

田城部会長；本日医療系テーマについて議論がございましたが、介護系の委員の方々からご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。
検討テーマの回答期限はいつになりますか。

目崎医療連携担当主査；令和元年12月27日を予定しております。

田城部会長；最後に、部会員の皆様よりご意見や情報提供等ございましたらお願いします。

藤田委員；先ほどがんについてお話がありましたが、区内2歯科医師会で設置している文京区地域包括ケア歯科相談窓口では、口腔がんに関する相談は今のところありません。

フレイル事業の話に戻りますが、フレイルトレーナーは文京区に何人いらっしゃいますか。なぜ何うかという、歯科も携わりたいと考えております。そこでフレイルトレーナーとフレイルサポーターの中間の位置がなかあるのかどうか聞かせてください。

真下高齢福祉課長；フレイルトレーナーはフレイルサポーターへの指導者であり、総括するような形でフレイルチェックの場に参加いただいております。ゆくゆくはフレイルサポーターが主体的にそのチェックを行っていくことを考えていますが、専門職の方にもフレイルトレーナーになっていただいています。健康運動指導士やPT（理学療法士）の方にもなっておりますので、赤シールがある方がいらしたり、健康相談を受けたときに技術的な助言ができるような位置づけになっています。そういった点では、やはりサポーターの方には技術的なところはなかなか難しいところがありますので、トレーナーに頼ってお答えいただくこととなります。サポーターはボランティアですので、トレーナーの方次第で方向性が変わっ

てくることもございます。トレーナーは、サポーターの方と一緒にあってフレイルチェックを盛り上げていくうまく取り組んでいただく役割を担っています。

藤田委員；フレイルチェック1回当たりのフレイルトレーナーは、1人か2人ですか。

真下高齢福祉課長；今はまだ開始初期段階ですので、2人以上に参加いただいております。ゆくゆくは1人でいろいろ取り仕切っていただくことになるかと思いますが、まだ始めたばかりですので、状況も確認しながら、2人以上の方にご参加いただいております。

藤田委員；イレブンチェックを見ますと、栄養、口腔、運動、社会性の4つに分かれていますので、各々の専門職の人を選んでといたしますか、トレーナーではないにしても、その中間の位置の専門職の人をそれぞれに入れていただければと思います。

星野委員；私はフレイルチェックを見学したのですが、フレイルチェックの会場では、フレイルサポーターの方が動いていらして、フレイルトレーナーの方は裏方といいますか後ろから指導する形で実施されていました。

要するに、サポーターとチェックを受ける方が同世代になりますので、かなり和気あいあいという感じで行って行っていました。ブースが4つあって、5人ごとでぐるぐる回るような形で実施されていましたが、単純に1人で回っていくようにしたら、2時間かからないで行えるのではないかと思います。

口腔のチェックについて、我々歯科医師ももう少しかかわれたらというのが、藤田委員のご意見だと思います。

田城部会長；柏市などを見ていると、基本的にフレイルチェックは市民の自主的な活動になりますので、基本的に市の職員が直接手を出すことはしません。フレイルサポーターで元気でリーダーシップがある方が、どんどん自主的にされて、ますます元気になっていく。高齢者同士の互助ですね。

ただ、滑舌のチェック等もありますし、歯科医師、歯科衛生士やST（言語聴覚士）など、資格をお持ちの現役の方やリタイアした方でもいいので、来年度以降ご協力をとのことです。

榎戸健康推進課長（事務局）；貴重なご意見ありがとうございます。

フレイルチェック自体は非常にわかりやすく、簡単に赤と青いシールをつける形で、住民同士でチェックし合うというのが究極な目的ですが、チェックした結果どうするのが保留になっています。今後、赤シールがふえた場合にどのような形で改善していくのか、赤の状態から青にするのかというところにつきましては、ぜひお知恵をかり、ご相談しながら、よりよいものにしていきたいと思います。高齢福祉課と健康推進課で打ち合わせをしておりますので、固まりましたら、また医師会、歯科医師会の先生方にご相談させていただきたいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

田城部会長；ほかに何かございますか。

それでは、事務局より次回の検討部会についてお願いいたします。

榎戸健康推進課長（事務局）；次回は3月ごろに開催したいと思います。日程につきましては、田城部会長とご相談の上、早目にご連絡いたします。

なお、本日の要点記録を区のホームページに掲載いたします。記録等の確認等で皆様にご協力をいただきますが、よろしくお願いいたします。

また、検討テーマのアンケート結果を次回報告させていただきたいと思っておりますので、ご承知おきください。

5 閉会

田城部会長；本日は貴重なご意見、活発なご議論をありがとうございました。

閉会といたします。